



## 平成25年度宮崎大学診療科合同説明会

9月28日(土)に専門医養成委員会及び卒後臨床研修センター共催による平成25年度宮崎大学診療科合同説明会が開催されました。

研修医は1年次12名、2年次11名の計23名の参加があり、診療科からは34名の参加がありました。

各診療科から2分間という短い時間ではありましたが、ユーモアを交えた説明もあり、和やかな雰囲気の説明会となりました。

研修医は普段直接話すことができない診療科の先生方との貴重な意見交換もでき、今後の進路選択の参考になったことと思います。



## 研修医マッチング

平成26年度研修開始予定の「臨床研修マッチング」が行われ、医師は10月24日(木)、歯科医師は10月29日(火)にマッチング結果が発表されました。

### 【医師】

自主デザイン研修プログラム 34名

### 【歯科医師】

歯科卒後臨床研修プログラム 8名



## 研修医の声



Voice

1年次研修医

佐々木良子

(写真左から2番目)

宮崎大学医学部附属病院1年次研修医の佐々木良子です。当院の研修病院としての魅力は柔軟性のある研修プログラムの選択ができることです。実際に私は、外科を古賀総合病院で、救急を善仁会病院で、内科を大学病院で研修させて頂いています。民間病院と大学病院の両方を同時期に経験できることは今後専門を決める上で非常に有意義だと思います。

研修医として働き始めて半年が過ぎた今、出来ないこと、分からないこと、大変なことが多々ありますがやりがいのある毎日です。また、見守ってくれる医療スタッフをはじめ、疾患や治療について考え方を導いて下さる指導医の先生方、優しくサポートして下さる若手の先生方、そして一緒に悩み笑える同期のみんな、たくさんのバックアップに支えられています。感謝、厳しさ、温かさ、古事記の源・宮崎の地での研修を共にとお勧めします。



Voice

2年次研修医

黒木 純

(写真左)

2年目研修医の黒木です。僕は宮崎で生まれ育った生粋の宮崎人です。一度は県外に出てみたいという気持ちもあり、研修先を選ぶにあたっては悩みましたが、将来、宮崎で働くなら、初期研修中に県内の先生とたくさん出会いたいと思い、いろいろな病院で研修できる宮崎大学での研修を希望しました。研修医になり約1年半、いくつもの病院でたくさんの経験をさせてもらい、また、たくさんの尊敬できる先生に出会うことができました。どの先生方も熱心にご指導してくださり、恵まれた環境で研修できることに感謝しています。今後も宮崎で医師として働いていくつもりなので、このつながりをずっと大事にしていきたいと思います。



# 本院診療科 紹介



## 本院 産科婦人科



産婦人科は、周産期医学、婦人科腫瘍学、新生児医学を中心に宮崎県の地域医療を楽しく真剣に頑張っています。特徴としては、各分野を主治医制ではなくチーム制にし、チーム内での指導教育に屋根瓦方式を徹底しています。若手医師は各チームをローテーションしながら、自分の専攻領域を選択します。女性の一生に起こるダイナミックな変化を学問の対象としていますので、若い先生にも興味ある領域が必ずあると思います。気軽に医局に遊びにきてください。

## 本院 病理診断科

平成25年10月1日、「病理診断科」として生まれ変わりました。(中央診療施設としての「病理部」は残ります) 名実ともに、医療行為である「病理診断」を行う診療科となりました。研修では、実際に病理診断業務である「病理解剖」「病理組織診断」「細胞診」、それらに付随する剖検所見会(CPC)、術中迅速診断、切り出し等の病理標本作製業務を行います。これらを通じて、疾患に対するより深い見識・理解を得ることができます。



## 指導医からのメッセージ



美郷町国民健康保険西郷病院 小田 竜 先生

美郷町西郷病院の小田竜と申します。自治医大を卒業し11年、整形外科疾患を中心に僻地診療一本で今日まで来ております。西郷病院では「今世六感塾(いまよろっかんじゅく)」という地域医療塾を立ち上げ、研修医の先生方に僻地診療を肌で感じてもらえる場を整備しております。宮崎県は全国でも「古き良き医師・患者関係が残っている土地です(裏を返せば遅れているという事かもしれませんが...)」。宮崎市内でも見知らぬ人同士、道端で会えば挨拶する事もしばしばです。特に山間僻地では、昔ながらの濃厚な住民関係そして、医師患者関係が存在します。医学的な知識、経験はあまり僻地実習では学べないかもしれませんが、弘兼憲史の「人間交差点」的な経験ができる場だと思います。西郷病院でお待ちしております。

〈写真:左〉



本院 小児科 澤 大介 先生

宮崎大学小児科の澤大介と申します。大学病院の小児科は、感染免疫、循環器、血液腫瘍、代謝内分泌、腎臓、神経、発達の各グループに分かれ専門的な診療を行っています。こどもは苦手と思い込んでいる先生方もいると思いますが、実際に回ってみるとそうでもないことがわかります。一般小児科と比較し重症な患者さんが多い病棟ですが、それでも患者さんの笑顔や笑い声にあふれています。研修医の先生方は、各科で忙しい生活を送られていることと思います。学生の実習と異なり現場に出ると様々な問題に遭遇したり、悩んだりすることと思います。そんなときこそたくさんの先生方やスタッフと色々な話をして視野を広げてください。それが、今後に役立つ事と思います。体調に気をつけながら研修がんばってください。

写真:真ん中



## 研修トピックス

### 【情報提供】 平成27年度からの 臨床研修制度について

平成16年度より開始された臨床研修制度は5年ごとに見直されることになっています。平成25年度中には、厚生労働省医道審議会医師臨床研修部会において、臨床研修制度に対する総合的な評価とそれに基づく制度全般の見直し作業が終了する予定です。また、平成26年度中には見直し後の制度に基づいて研修医を募集し、平成27年度からは見直し後の制度の下で研修開始となる見通しです。宮崎大学研修プログラムもこの制度改定に応じて現在のプログラムを見直す予定としており、その際には改めて情報提供させていただきます。



# 海外医療体験研修報告



〈写真:左から3番目〉

## 2年次研修医 熊坂 純恵 先生

PSUではPsychiatryとFamily Medicineを研修させていただきました。Psychiatryではレジデントが英語翻訳をしてくれたので患者の話を理解することができました。また、学生やレジデントは勉強家で英語力も高く、私自身も多くの刺激を受けることができました。帰国後も勉強していかなければという気持ちになりました。タイではごはんもおいしく、スタッフもみんな親切なので、研修の傍ら楽しい海外生活を送らせていただきました。この機会を与えてくださった方々に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

## 2年次研修医 渡辺 恵理 先生

タイでの研修は日頃意識することのない日本と海外の医療の違いを目の当たりにすることが出来ました。とはいっても、私が研修させて頂いた整形外科でのタイの医療レベルは私が今まで宮崎で見えてきたものとはほぼ変わりなく(時に高度で)、若手のドクターが一人で手術を行っている様子など、とてもこれからの私自身の研修にとって刺激となりました。そしてタイの優しく温かみのある人々・同伴して下さった先生方に支えられて、充実した研修を過ごすことが出来ました。今後もこの研修制度による交流が続くことを祈っています。最後にこのような素晴らしい機会を与えてくださった卒後センター職員・関係スタッフの方々・タイで出会った方々に心より感謝申し上げます。



〈写真:右から4番目〉



## 研修プログラムお助け Q&A



### 【第2回】研修中の学会発表について



現在●●病院で研修中です。以前ローテートしていた▲▲病院での担当症例を学会発表することになりました。学会は週末ですが、移動のため平日午後から●●病院を休まないといけません。どうしたらいいのでしょうか?(質問者:研修医Rさん)



卒後臨床研修センターとしては、研修中の学会発表や論文執筆は研修医の皆さんにとって将来への貴重な財産となりますので、指導医の先生方が与えて下さった素晴らしい機会をぜひ活かしていただきたいです。ただ、発表症例を経験した病院と学会開催日にローテートしている病院が違う場合には幾つか配慮していただきたいことがあります。

このような事例は多いため、卒後臨床研修センター運営委員会では、

- ①学会および研究会への参加が研修医にとってより学習効果が高いと当該診療科(指導医)が判断した場合
- ②研修医自身の参加希望の意志を尊重する
- ③当該診療科研修期間以外の期間の出張にあつては、上記①②を満たした上で、事前にその発表時期の研修先診療科あるいは病院等の研修責任者の了解を得ること、

の3つを満たすことを、「申し合わせ」という形で指導医の先生方にも通知しております。したがって、今回の場合には、▲▲病院の研修責任者(あるいは指導医)の先生から●●病院の研修担当の先生へ口頭あるいは文書での依頼を必ず出していただき、了解を得るようにお願いして下さい(移動・発表が休日だけの場合にも、極力同様にしていれば幸いです)。

(回答者:副センター長 小松 弘幸)



## 研修センターコラム

### 「宮崎市夜間急病センター小児科」 近藤 恭平 先生 (卒後臨床研修センター)

午後7時から翌朝7時まで宮崎市周辺の初期診療を内科、外科、小児科に分かれて診療しているのが通称急病センターです。小児科に限れば1日20から60名程度が受診されます。主に小児科開業医と大学小児科が日替わりで連日小児科を担当しています。症状の緩和、入院が必要な方を見極め、養育者の不安軽減が主たる業務です。私自身もこれまで200回近くの担当を務めました。未だに自身の深夜帯での心のありようには苦心しているところです。小児科医不足と高齢化が相まって50歳以上の先生方も毎月1回以上本業務に従事しておられます。決して華々しい仕事ではありませんが、もくもくと約40年間継続してきたことによりやく大先輩方の凄さを実感しております。平成26年度より小児科のみ県立宮崎病院へ場所を移し、本事業が展開されることが決定されています。こども達の重症化を予防する事が我々に課せられた使命と認識し、この歴史が継続されるように先輩方の背中を追いかけて行きたいと思う今日この頃です。



### 行事案内

11月	30日(土)	平成26年度研修ローテート等説明会 卒後臨床研修センター忘年会
12月	3日(火)・6日(金)	1年次研修医グループ面談
	14日(土)~15日(日)	平成25年度「指導医のための教育ワークショップ」(宮崎市)
2月	1日(土)・2日(日)	2013年度基本的臨床能力評価試験
	1日(土)~2日(日)	第107回歯科医師国家試験
	8日(土)~10日(月)	第108回医師国家試験
3月	上旬	医師研修管理委員会(修了判定)
	18日(火)	医師・歯科医師国家試験合格発表
4月	1日(火)~	平成26年度研修医オリエンテーション



### 研修『何でも掲示板』への原稿・記事募集!



研修に関する情報共有、意見交換の場として『何でも掲示板』のコーナーを開設します。内容は研修に関することなら何でも結構です。

これは研修医に知ってほしいという情報、メッセージなどをぜひお寄せください。みなさまからのご応募をお待ちしております。

例)

【内容】 研修医や指導医へのメッセージ、研修関連勉強会の案内、トピックスの紹介など

【字数】 200~400字程度

【図表】 1点まで可(掲載できるサイズが小さくなることをご了承ください。)

※センター通信発刊月は毎年3回(4,8,12月)です。

## 宮崎大学 医学部 総務課 卒後臨床研修係 (内線: 2385/2386)

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200  
TEL:0985-85-1864 / FAX:0985-85-3101  
E-mail:sotugo@med.miyazaki-u.ac.jp